

平成25年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT25092

景福宮(キョンボックン)  
～朝鮮王朝の王宮文化と伝統工芸をたのしもう～



開催日	: 平成25年7月28日(日)
実施機関 (実施場所)	: 東京純心女子大学 大学棟 (児童英語教室)
実施代表者 (所属・職名)	: 大竹 聖美 (こども文化学科・教授)
受講生	: 小学生 4名 中学生 6名
関連URL	: <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/hirameki_2013">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/hirameki_2013</a>

【実施内容】

■工夫した点■

本事業の基となっている科学研究費採択課題は、「植民地朝鮮における近代児童文学の成立と日本児童文学の交渉」(研究課題番号:一九七二〇〇八四)および、「近代韓国における児童文化運動と韓国児童文学成立期の研究」(研究課題番号:二四五二〇四〇九)であるが、植民地期の朝鮮の児童文化についての研究成果を解説することよりも、「近くて遠い国」ともいわれる韓国の文化について、次世代を担う子どもたちに、植民地期のような偏見や価値観にとらわれることなく、新しい感性で広く隣国の文化に目を向け、理解し、親しんでもらうことを目的とし、以下の点に留意した。

- ①韓服(チマ・チョゴリ)を着た留学生が原語による韓国の絵本の読み聞かせをした。
- ②大学でコレクションしている韓国文化理解教材(絵本・伝統工芸品・服飾文化財)を展示し、異文化理解の助けとした。
- ③休憩時には韓国の子守唄をBGMIに、韓国伝統茶と伝統菓子を試食しながら留学生との交流を楽しんだ。
- ④韓国の伝統工芸である韓紙工芸(菓子皿)の作品作りと韓服(チマ・チョゴリ)の試着を通して、子どもたちに韓国文化を体験的に学習してもらう。

■当日のスケジュール■

- 12:30-13:00 受付(東京純心女子大学事務局前集合)
- 13:00-13:15 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
- 13:15-13:35 講義「景福宮(キョンボックン)～朝鮮王朝の王宮文化」(講師:大竹聖美)
- 13:35-13:50 留学生に聞く、ソウルの王宮(留学生)
- 13:50-14:15 ミニレクチャー①:韓国の韓紙工芸と韓国の文化(外部講師:橋詰恵子)
- 14:15-15:30 実習①:韓紙工芸を体験しよう(伝統模様入りの菓子鉢を作ってみよう)
- 15:30-15:50 韓国の伝統音楽を聴きながら～留学生との交流会  
(韓国の伝統茶(スジョンガ・シッケ・ベッチャ)と菓子)
- 15:50-16:15 ミニレクチャー②:韓服(チマ・チョゴリ)の魅力  
～原語で聞く韓国の絵本(『ソルビム』(セーラー出版))の読み聞かせ(留学生)
- 16:15-16:45 実習②:韓服(チマ・チョゴリ)を着てみよう (補助:留学生)
- 16:45-17:00 修了式(アンケート記入、「日韓文化交流子ども大使」授与)  
解散

■実施の様子■

○私たち留学生がお手伝いします。



○まずは<王宮>の説明から。



○<訓民正音>の模様です。



○韓紙工芸にトライ！



○韓国のお茶とお菓子で留学生と交流。



○原語で絵本の読み聞かせ。



○「日韓文化交流子ども大使」になりました！



○チマチョゴリを着てみました！



○チマチョゴリを着て、みんなでハイポーズ！



■事務局との協力体制 ■

会計管理と広報、備品準備、会場設営、写真撮影など、講座内容以外の管理運営はすべて事務局で行い、当日は実施代表者及びアルバイト学生と共に準備を行った。

■広報体制 ■

大学及び学術振興会のホームページを通して一般に広報するとともに、八王子市内の全小学校校長宛にチラシとポスターを配布し、大学近隣の自治体にチラシを送り、回覧板にて各家庭に告知してもらった。そのほか、新聞、雑誌、フリーペーパー等各種媒体を通して情報の掲載依頼を行った。

■安全体制 ■

参加者全員に保険をかけた。4～5名ずつの小グループに分け、それぞれ留学生の補助が付き、実施代表者、分担者がそれぞれのグループを見て回り、十分な指導にあたった。

■今後の発展性と課題 ■

今年度は、比較的大きめの韓紙工芸にチャレンジしたが、アシスタント講師の方が丁寧に一人ひとりサポートしてくださり、留学生も慣れてきたこともあって、作品の出来栄もよく、スムーズに進行した。小学校低学年から高校生までの参加者があり、年齢層に幅があったため体験試着のチマチョゴリのサイズがあまり重ならず、試着の方も短時間で体験できた。文化体験講座なので、年齢を問わず楽しんで異文化理解の時間を過ごせたと思う。しかし、今後はもう少し踏み込んだ歴史的な解説も織り交ぜながら内容に深みを持たせることが課題である。

【実施分担者】

平島 美保  
上原文丸  
高橋 千佳子

こども文化学科長、教授  
国際教養学科長、教授、地域共創センター長  
国際教養学科、准教授、国際交流委員長

【実施協力者】 10 名

【事務担当者】

樋口 和彦 大学事務局 地域共創センター